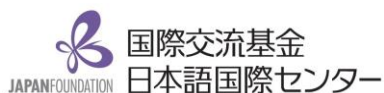


読解の教え方

Unit 2 実践 Part 2 授業の計画（中級からの読解）



1. はじめに

中級からは読解のコースや読解の授業が独立して行われることがあります。一つのテキストを読むとき、どんな授業の構成が考えられるでしょうか。読む前にテキストの中のことばや文法を学ぶ、家で読んでくる、読んだ後でテキストの内容についての質問に答える、こんな授業が多いかもしれません。このような授業では、その時のテキストはよく理解できるようになりますが、ほかのテキストを読むときにも使える読解力はつくでしょうか。読解力をのばすためには、テキストに注目するだけでなく、読み方そのものにも注目した授業をする必要があります。このパートでは、読む目的をもって読むこと、ストラテジーを使うことを通して読み方を教える授業計画を紹介します。

このパートのキーワード

前作業 本作業 後作業

2. 読解授業の構成

ひとつのテキストを読む授業は、表 1 のように 3 つの部分に分けて計画します。

前作業は、読む準備です。学習者にこれから読むテキストに対する興味や関心を持たせます。たとえば話題を提示して、学習者がすでに持っているスキーマを活性化します。テキストを理解するのに必要な言語や社会文化に関する知識を教えます。そして、学習者にとって知ら

ないかもしれないことばや文法は全部教えるのではありません。キーワードや内容に関わる大事な文法だけをここで確認してください。

表 1 読解授業の構成^{こうせい}

前作業（準備）	・「読みたい」という気持ちになる ・スキーマ^{かっせい}を活性化^かする ・理解に必要なことばや知識を確認する
本作業（読解）	・目的を持って読む ・さまざまなストラテジーを使って読む
後作業（発展） ^{はってん}	・感想や意見を話したり書いたりする ・読み取った情報をもとに行動する ・テキストの中の語彙^{ごい}や文法などを使ってことばの学習をする

本作業は、テキストの読解です。何のために、何を知るために読むのか、状況^{じょうきょう}や目的を設定^{せってい}します。推測をしたり全体の大意^{たいい}をつかんだり、ことばや文の関係^{ちゅうもく}に注目したり、さまざまなストラテジーを使って読むような質問をします。

後作業は、読んだ内容を使った発展^{はってん}の活動です。テキストの感想や意見を話したり書いたりします。読み取った情報をもとに行動をすることもできます。また、テキストの中に出てきた語彙^{ごい}や文型などを使って、ことばの学習をします。

3. 読解の授業計画（例）

では、授業計画の例を見てみましょう。

（1）テキスト

「みんなの教材サイト」 JFS BI 読解教材 5. ペットについての記事を読む（772 字）

<https://www.kyozai.jp/kyozai/material/DJR00031/ja/render.do>（ログインが必要です）

(2) 目標 Can-do

ペットに関する簡単な記事を読んで、重要な情報を理解することができる (JF Can-do
B1 I 62 から作った MY Can-do)

(3) 授業時間

約 120 分 (60 分×2 回、90 分×1.5 回など)

ここでは、それぞれの活動の目的や教え方のポイントを説明しています。一部はタスクになっているので、学習者としてテキストを読んで、答えを考えてみてください。また、以下のように分かれていますので、気をつけて読んでください。

前作業、本作業、後作業の質問
【タスク】は最後に答えます。

読解用テキスト

3-1 前作業

みんなで話しましょう。

(1) あなたはペットを飼^かっていますか。

飼ったことがありますか。



(2) 右の写真を見てください。犬は

どんな気持ちでいると思いますか。



(3) これから読むテキストのキーワードです。読み方と意味を確認してください。

キーワードから内容を予測^{ないよう}してみましょ^{よそく}う。

ペット 家族 飼い主 責任

前作業の目的は、読む前の内容とことばの準備です。(1)の質問では、ペットを飼った経験があるかどうかをたずねて、これから読むテキストの内容が自分とどう関係があるかを考えます。(2)では、写真を見て、ペットに関わることは楽しく、いいものばかりではないということ^{そうぞう}を想像します。(1)と(2)で、学習者が持っているスキーマ^{かっせい}を活性化させます。

(3)は、読むためのことばの準備です。テキストを見ると、教師としてもっと教えたいことばや文法があると思うかもしれません。これは、テキストのキーワードです。つまり、テキストを理解するために大切なことばです。学習者によっては、それ以外にも、わからないことばや表現があるかもしれませんが、スキーマ^{ぶんみやく}や文脈^{ぶんみやく}などを使って推測^{すいそく}したり、さまざまなストラテジーを使うきっかけにしたりするために、これだけのことばを確認します。そして、この4つのことばからこれから読むテキストの内容^{よそく}を予測^{よそく}してみます。

予測^{よそく}は、外れるかもしれません。正しく予測することが大切なのではなく、予測して読む習慣^{しゅうかん}をつけること、予測の結果を確認してまちがっていたら修正^{しゅうせい}できることが大切なのです。

3-2 本作業

【タスク1】下の本作業の(1)の答えを考えてください。

あなたは今、自分の家で犬か猫を飼うかどうか、まよっています。ペットを飼うことについて情報を得るために、動物愛護センターのウェブサイトの記事(テキスト)を読んでみましょう。辞書を引かずに読んでください。

(1)テキストの[Ⅰ]～[Ⅳ]^{みだ}に見出しを入れます。下のa～dの中から選んでください。

a 「ペットは家族」

b 「責任をもってペットを飼えますか」

c 「不幸にされたペット」

d 「2000 万頭の犬と猫」

[I] () [II] () [III] () [IV] ()

本作業は、実際に読む活動です。ここで、読み手の^{じょうきょう}状況や読む目的、テキストの書き手や場所を知らせて、読み方を^{しじ}指示します。読み手はペットを飼うことを考えていて、動物好きな人やペットに関心がある人が見る「動物愛護センター」のウェブサイトの記事を読んで情報を探そうとしています。

本作業の質問やタスクは、読む前に知らせます。このテキストでは、3 つの質問やタスクがあります。1 つ目のタスクは、^{だんらく}段落、つまりパラグラフの見出しをつけることです。サイトや雑誌などの記事には、^{とちゅう}途中に見出しがあることがあります。見出しはこれから読む内容をまとめていたり、その内容を短く^{あらわ}表したりしています。見出しやタイトルをつけるためには、テキストの^{たいい}大意をつかむ読み方、つまりスキミングをします。ここで学習者は、まず 1 回ざっと読んで、答えます。クラスでは、一人ずつ答えを考えてから、グループやクラス全体で答えを確認するといいでしょう。



これから犬や猫を
飼いたいと思っているあなたへ



[Ⅰ]

あなたは動物が好きですか。あなたの家にはペットがいますか。それとも、これから飼いたいと思っていますか。日本では、今、犬と猫だけでも約 2000 万頭（2016 年ペットフード協会調査）がペットとして飼われています。なんと 15 歳未満の子どもの数より多いのです！

[Ⅱ]

ペットは私たちの生活にいろいろな良いことをもたらしてくれます。犬や猫を飼うことで、やさしい気持ちになれる、家族の会話が増える、家庭のふんいきが和やかになる、というような人の情緒やコミュニケーション面での効果はよく言われることです。最近は少子化・高齢化社会を反映して、生活にいやしをもとめてペットを飼う人も増えています。ペットは人間にとって、たんに「かわいがる動物」から「家族やパートナー」として必要とされるようになったのです。

[Ⅲ]

ところが、現実にはとても悲しいことが起こっています。「家を引っ越すから」「仕事が忙しくなったから」「増えすぎてしまったから」「ペットが年をとったから」と言って、世話をしなくなったり、ペットを捨てる無責任な飼い主がたくさんいるのです。このように飼い主に捨てられた犬猫のほか、迷子や飼い主がいない犬猫が、年間約 114,000 頭も保健所

や動物愛護センターに引き取られています。もし新しい飼い主が見つからなかったら、その犬猫たちはやむを得ず殺処分されてしまいます。

[IV]

ペットはおもちゃではありません。命ある生き物です。命をごみのように捨てることは許されません。あなたはペットの飼い主として最後まで責任をもつことができますか。動物を飼うことは、金銭的にも体力的にもとてもたいへんです。あなたの生活の自由も制限されます。それがずっと続くのです。あなたはほんとうに最後まで飼い主の責任を果たせますか。どうかペットを飼う前によく考えてください。

本作業の 2 つ目、3 つ目の質問は、もう一度テキストを読んで答えます。

【タスク 2】 本作業の 2 つ目の質問に答えてください。

(2) テキストの内容(情報や書き手の意見)と比べて、下の①～⑤が正しければ○、正しくなければ×を書いてください。

①日本では 15 歳未満の子どもより、ペットの犬猫の数の方が多い	
②ペットを飼えば人間は長生きできるので、ペットは家族よりもたいせつだ	
③ペットを飼えなくなったら、動物愛護センターが引き取ってくれる	
④動物愛護センターの犬猫は、全部、新しい飼い主にもらわれる	
⑤ペットを飼うことは責任があることなので、よく考えてから飼った方がよい	

2 つ目の質問は、○か×で答える質問です。このような質問は、正誤問題^{せいご}とも呼ばれます。言い換えなどで内容理解を確認して答えます。まず、それぞれの問題文に関する内容がテキストのどこにあるか探します。そして、テキストと質問が同じ内容なら○、まちがっていたら×を書きます。

【タスク3】 本作業の3つ目の質問に答えてください。

(3) テキストの中に、飼い主にとってペットを飼うことの長所（いいこと）と短所（たいへんなこと）が書かれています。下の表に整理^{せいり}してみましょう。このテキストで書き手が言いたいことはどちらですか。

長所	短所

3つめの質問の目的は、テキストに書かれている情報の中から大事なものをぬき出して、表に整理^{せいり}することです。読み手は、ペットを飼うかどうかまよっているという状況^{じょうきょう}でした。私たちは生活の中でも、どちらかまよったときにはよく長所と短所、プラスとマイナス^{くら}を比べます。このテキストも、見方を変えると、長所と短所が比べて書かれていると考えることができます。

ペットが増えている理由は、ペットの長所とも考えられます。しかし、ペットを飼うことはたいへんなこと、つまり短所もあります。そして、書き手は、飼い主として責任^{せきにん}を果たせるかどうか、

飼う前にペットを飼う大変さもよく考えてほしいと書いています。これが書き手が言いたかったことです。これがこのテキストを読む授業の目標です。書き手のメッセージ、つまりペットを飼う前に大変なことがあることを考えてほしいということがわかったら、この授業の目標達成もくひょうたっせいです。この質問によって、テキスト全体を表にまとめて、くわしい内容理解をする、つまりボトムアップの読み方をしています。

3-3 後作業

(1) つぎのことについて、みんなで話し合しましょう。

- ① 無責任な飼い主をなくすために、私たちはどんなことをしたらいいと思いますか。
- ② 捨てられた犬や猫が、もう一度幸せになれるように、私たちはどんなことをしたらいいと思いますか。

後作業は、テキストの内容とことばについての発展的はってんできな活動です。テキストの内容に対して行動する、つまり自分の意見を言ったり、書いたりします。また、テキストの中のことばや文法などを学びます。

(1) の活動では、自分の意見を考えるためにテキストを読みなおして、書かれていることについて深く考えます。①の「無責任な飼い主」とはどのような飼い主か、テキストに書かれていることを確認したり、学習者自身がどう考えるか話し合ったりすることもいいと思います。②の質問では、捨てられた犬や猫のために、一般の人に呼びかける行動を起こすことを考え

るのもいいでしょう。

【タスク 4】 後作業の 2 つ目の質問に答えてください。

(2) ①～④はテキストで使われたことばです。読み方を確認しましょう。

次に、ほかのことばを使って言いかえましょう。①～③はテキストの中に同じ意味のことばがあります。

	読み方	言いかえ(意味)
① 愛護(する)	(する)	
② 生き物		
③ 情緒		
④ やむを得ず	やむを()ず	

(2) は、テキストの中に出てきたことばを使った学習です。テキストを読んだ後なので、これらのことばがどんな内容や文脈^{ぶんみやく}で使われるかわかっていますから、理解を助けてくれます。

4. まとめ

読解の授業では、「前作業」「本作業」「後作業」の 3 つの部分に分けて計画します。

前作業では、読む内容とことばの準備をします。ここでは、教えすぎないことが大切です。知らないとテキスト全体の理解ができない大事なキーワードを教えます。

本作業では、目的を持って読み、読み方の練習をします。そして、読む目的が達成^{たっせい}できたか

どうか確認をすることも大切です。

後作業では、読み手として意見を言ったり、新しいことばや文法がほかのテキストでも理解できるように、また使えるように練習をしたりします。

【タスク5】 あなたが日本語学習者として、または日本語教師として経験したことがある中級の読解教材や読解の授業を思い出してみましょう。このパートで紹介した「前作業」「本作業」「後作業」がありましたか。ほかにどんな共通点や相違点がありましたか。

きょうつうてん 共通点	そういてん 相違点

■ このコースの参考文献と参考サイト

- 国際交流基金（2006）『読むことを教える』（国際交流基金 日本語教授法シリーズ7）
ひつじ書房
- 「みんなの教材サイト」JFS 読解活動集（ログインが必要です）
<https://www.kyozai.jpf.go.jp/kyozai/material/jfs/home/ja/render.do>

■ タスクの答え

【タスク 1】

[Ⅰ](d) [Ⅱ](a) [Ⅲ](c) [Ⅳ](b)

【タスク 2】

① 日本では 15 歳未満の子どもより、ペットの犬猫の数の方が多い	○
② ペットを飼えば人間は長生きできるので、ペットは家族よりもたいせつだ	×
③ ペットを飼えなくなったら、動物愛護センターが引き取ってくれる	×
④ 動物愛護センターの犬猫は、全部、新しい飼い主にもらわれる	×
⑤ ペットを飼うことは責任があることなので、よく考えてから飼った方がよい	○

【タスク 3】

長所	短所
- やさしい気持ちになれる - 家族の会話が増える - 家庭のふんいきが和やかになる	- 金銭的にたいへん - 体力的にたいへん - 生活の自由が制限される

【タスク 4】

	読み方	言い換え(意味)
① 愛護(する)	あいご (する)	かわいがる
② 生き物	いきもの	どうぶつ
③ 情緒	じょうちょ	きもち
④ やむを得ず	やむを(え)ず	しかたなく、ほかに方法がなくて

【タスク 5】(答えなし)